

街場の就活論 vol.19

～新卒採用とキャリア教育に関するハナシ～

だん あそぶ
団 遊

『好きなことを仕事にする』という呪縛

授業を受けている大学生から、こんな質問をもらいました。

「団さんは好きなことを仕事にする、ということについてどう思いますか？ アリですか？ 私はぜんぜんアリだし、逆に好きなことややりたいことと、仕事のベクトルが違う方向にあると『仕事やってるのきついなー』と思うのですが、**ちゃん的には『好きなことを仕事にする』という考えに固執しなくてもいいかなと思っているなう、だそうです（昔のわたしのような考え方）。

**ちゃんが将来実現したいことは『外国人が集まるようなカフェの運営をすること』なのですが、その収入だけじゃ生きていけないなあ、とっているそうです。だから定時で働けるような職に就いて、有給もバンバン使って、アフター5でカフェ運営をやりたいなあ、とのこと。

**ちゃんの話は一例ですが、世の中で『好きなことを仕事にする』って決めて職探しをする人って、多くないですよ？ だから、仕事が好きな（ように見える）団さん的にはどうお思いなのでしょう？」

この手の質問は、毎年一定数受けます。そこで今回は「好きなことを仕事にする」ということについて少し考えてみたいと思います。

そもそも「好きなことを仕事にすべきか否か」といったような話が大学生の間で話題になり始めたのは、最近のことだと思います。もちろん、昔から「好きなことを仕事にしたい」と思う人はたくさんいたでしょうが、それが質問としてあがるようなことは少なかったのではないのでしょうか。

ではなぜ質問化したかという、「そうした方がいい」という意見が蔓延し始めたからだと思います。しかも、意見者が大学生の憧れ対象であることも多い。若手のベンチャー起業家や社会起業家と呼ばれる人たちです。亡くなったスティーブ・ジョブズなんかもそうだと思います。自分がいいと思う人がそう言う、「やっぱりそうなのかな」と思います。

* * *

「好きなことを仕事にする」ことに反対はありません。その方がストレスも少ないし頑張れるし学びがあるし充実するし、とてもいいと思います。

自らがそのような体験をして本当にいいと思ったから、ブログやニュースを通じてメッセージを発信するのだと思います。

ただ、そのメッセージは同時に「好きなことを仕事にしなければならない」という呪縛に苦しむ大学生を生産している面もあると思います。「好きなこと」は「やりたいこと」とも言い換えられますが、大学卒業時にやりたい仕事がある人など、そう多くはありません。そして、半年や一年程度考えたところで、見つかるものでもありません。

実際「好きなことを仕事にした」とメッセージしている多くの人、紆余曲折の末にたどり着いたのではないのでしょうか。新卒時から「好きなこと」や「やりたいこと」が明確で、それに向けて努力を続けてきた、という人はわずかでしょう。

だとすると、実態に合わせたメッセージは「好きなことや、やりたいことを仕事にできるのが一番だけど、新卒時にそれと出会うのは難しいので、まずは何でもいいから働いてみなよ」でしょう。しかしそれでは盛り上がり、ニュースにも話題にもなりません。

その結果、新卒時からの「あるべき姿」が想像の中で昇華され、「好きなことが見つからない」といったあせりや不安が増幅。新卒学生の会社への適正配置を阻害する要因になっている面があるのではないかと思います。

* * *

新卒時に大切なのは、「好きなことを仕事にすることに固執するよりも、仕事が好きになるように励むこと」です。「好きなものばかり食べていたら栄養が偏る」といいますが、この食事へのアドバイスの感覚と、仕事のそれとは近いのではないかと

思います。

内容によらず「仕事が好き」になるように励む。お友達の家で「**ちゃん、好き嫌いある？」と聞かれたときに「なんでも食べられます！」と言うと「偉いわねえ」と褒められます。好き嫌がなく、何でも残さず美味しく食べることができるのは、ひとつの能力です。そしてその能力は、多くの人から認められやすい能力です。たぶん仕事についても同じでしょう。

もちろん、「なんでも食べられる」子にも「好物」はあります。だから「仕事が好き」な人にも「好きな仕事」はできるでしょう。大事にしたいのは順番です。「好きな仕事」から入るのではなく「仕事が好き」から入る。先に挙げた「好きなことを仕事にしよう」とメッセージする人の多くも、実は前提として「仕事が好き」なのではないかと思っています。

* * *

大学の授業で「誰のキャリア？」というワークをやります。これは名前を隠して、その人の誕生からのキャリアを紹介していき、「一体誰のキャリアか？」を当てるというものです。ゲーム感覚でたいへん盛り上がるのですが、ここで一番人気なのが、バラク・オバマ大統領です。

オバマさんは、大学卒業時、自分が何をしたいのか、何が好きなのがよくわからず、出版社に入社します。しかしほどなく退職し、民間のリサーチ会社へ転職。しかし、そこでの仕事もあまり面白いとは思えず、在職中に励んだボランティア活動（本業とはとくに関係がない休日の趣味活動）を通じて、現在に通じるビジョンを確立していきます。

このワークを通じて、大学生は「オバマさんですら、新卒時には何がやりたいかは、わからなかったんだ」と知ります。「そんな大学生がアメリカ大統領になるんだ」ということ。さらに、「大切なのは、何がやりたいかを考え続けることなのだ」と学びます。そして「考え続けることならわたしにもできるかもしれない」と安心するのです。

「あなたは何がやりたいの！」と大学生に問いかけ過ぎるのは、たいして支援的でないケースも多いのです。

文／だん・あそぶ

「社会課題を創造的に解決する」をモットーに様々なプロジェクトを手がける。元は雑誌の編集者。大学では「街場のキャリア論」と題して、インターンシップを軸(実習)にそれぞれの人生のビジョンを考えるキャリアの授業を展開している。